

令和元年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月28日実施)	総合評価 (3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	これからの時代に求められる資質や能力の育成に向け、自ら課題を発見し解決する力と主体的に学ぶ意欲を高める。	(1)生徒の実態とニーズに応じた教育課程を研究実践し、さらなる充実を図る。 (2)外部の教育力を活用すると共に、学習評価方法の研究を推進し、共有する。 (3)高大接続改革と学習指導要領改訂に対応する授業改善を組織的且つ継続的に実施する。	(1)アンケートから生徒の実態・ニーズを分析し、学力の向上と進路実現に向けて生徒主体の学びを促す。新カリキュラムの作成を行う。 (2)企業や大学との連携をはかり生徒の学習活動を支え、学習意欲を高める。 (3)高大接続改革・大学入学共通テストに対応するための授業研究・研修を引き続き行い、成果を共有していく。	(1)生徒の実態に即した講習計画を改善できたか。生徒の自ら学ぶ意識・態度が向上したか。データをもとに新カリキュラムを考えたか。 (2)add-on 講座やアンブレナ-シップ等外部の教育力を効果的に活用できたか。 (3)+10分の活用法を共有し、生徒の表現・コミュニケーション能力等に活かしたか。	(1)平日講習、早朝講習、定期試験前講習等の要望が出てきたが、今年度は希望生徒に対して職員が個別対応した。新カリキュラムは各教科の要望を集約し調整・組み立てに入った。 (2)add-on 講座は、生徒の意識向上と4技能のスキルアップにつながった。アンブレナ-シップは外部講師の方々の教育力や外部団体(地域・企業)の支援を効果的に活用して、内容の充実に活かした。 (3)+10分の活用法は共通テストを行う科目内で、進捗確認を行いながら共有し、授業に活かすことができた。	(1)生徒の実態を把握しながら、学習意欲の向上に取り組む。現状、教室の不備や教員のボランティアに頼らざるを得ない課題が残る。職員の理解協力を得て、学校の体制の中に組み込みたい。 (2)add-on 講座は、希望者の講座日程と部活動などの学校活動日が重なって全ての講座を受講できていない。アンブレナ-シップの外部講師、外部団体(地域・企業)の協力体制を今後どのように維持していくか。 (3)教員個々のノウハウをお互いに共有し、自らの授業の改善に役立てるようにしたい。	(1)4年間の目標が明確に掲げられ、そのための授業・学習機会の提供をされていることは、高く評価できる。今後は「社会に開かれた教育課程」「総合的な探究の時間」を元石川高校の授業づくりに位置づけるカリキュラムマネジメントを検討されることが望まれる。 (2)とても素晴らしい内容の講座を開催していることを評価する。 (3)3年間でどのくらい成長したのか、学習成果の可視化の方法を開発すると良いだろう。	(1)(2)生徒の実態、ニーズを把握し、様々な講習、講座の実現を図った。外部の教育力を有効に活用することができた。 (3)授業改善については各教科において取り組んでいるところだが、互いの効果的な工夫を共有し、組織的に授業改善がなされる風土を醸成することが求められる。	(1)(2)今後とも講習、講座をより充実した発展的な内容にしていくとともに、外部の教育力を維持するための具体的な体制づくりに力を入れる。 (3)授業改善については今後ひきつづき組織的に授業改善がなされるよう、達成したい目標を生徒と効果を確認しながら全職員で積極的に取り組んでいく。
2 生徒指導・ 支援	自立した社会人としての資質と基礎力を養う。	(1)組織的な教育相談体制の確立を図る。 (2)キャリア教育の視点を踏まえた生徒指導と支援の拡充を図る。	(1)①教育相談のしおり作成。②支援体制の構築や講習会の実施。 ③交通安全指導の実践 ④TPOを前提とした服装、頭髪指導の実践。 ⑤ITモラル、ITリテラシーの向上を図る。 (2)①学校行事における生徒の主体性を促し、社会性と協調性を養う機会とする。また部活動に取組む生徒たちに対して技術的かつ精神的な成長を促す指導を行う。 ②分教室と連携して行事を企画運営する。	(1)①マニュアルに沿って支援できたか。②組織的に取り組み、生徒の問題解決に活かしたか。③交通安全指導の実践が減少したか。④再登校指導が減少したか。⑤生徒間のトラブルが減少したか。 (2)①自主的、積極的な行動は見られたか。部活動の充実と生徒の成長は見られたか。②両校の生徒が協力してできたか。	(1)①②生徒の実情に合わせてケース会議を行えた。 ③外部からの苦情が例年より少なかったが、年末にかけて登下校時の交通事故が増えた。 ④衣替えの時期、制服に関して再登校をしなければならぬ生徒が若干名いた。 ⑤SNSの不適切な利用による生徒指導が数件あった。 (2)①行事では生徒の積極的な参加と意欲的な取り組みが見られた。部活動の活性化は生徒の充実感を高め、学校全体の活性化につながった。 ②クリスマス会への分教室参加により学童保育の児童たちがより楽しみやすい雰囲気になることができた。	(1)①②生徒個々の抱える問題に迅速・適切な対応を図るため、さらなる組織の構築や対応教員の資質の向上が必要である。 ③登下校時の交通安全やバス・電車の乗車マナーの徹底が必要である。 ④各クラス担任のHRでの指導の徹底を図る。 ⑤SNSの使い方に関して、各講習会や情報の授業を有効に活用する。 (2)①体育祭や文化祭では意欲や取組みに生徒間の差が見られるため、より主体性をもった生徒集団へと引き上げるよう支援をする。 ②分教室との連携をさらに充実するよう協力体制を検討する。	(1)地域で出会う元高生は皆さん礼儀正しく、真面目な生徒と感じている。必要な指導、支援をきめ細やかにしていることがわかった。生徒の実情に合わせてケース会議が行われていることは成果である。迅速、適切な対応の更なる向上を期待する。 (2)生徒の主体性の開発が大切だと思う。生徒が当事者として課題意識・課題解決能力を発揮できるような導き方を工夫したら良いのではないかと。いろいろ任せてみると良いと思う。	(1)日頃より地域から愛される生徒を育てる指導を行っているが、バス・電車の乗車マナーや、自転車の乗り方指導などを徹底して行っていく。 (2)今後も行事や主体的活動に取り組む生徒の意欲を育て、技術的かつ精神的な成長を促す指導を行っていく。	(1)日頃より地域から愛される生徒を育てる指導を行っているが、バス・電車の乗車マナーや、自転車の乗り方指導などを徹底して行っていく。 (2)今後も行事や主体的活動に取り組む生徒の意欲を育て、技術的かつ精神的な成長を促す指導を行っていく。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月28日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	キャリア教育ブランドデザインに則り段階に応じた進路指導を図るとともに、社会での自立につながるよう学力向上を促す。	(1)「育成を目指す生徒像」へ向けて学校全体が一つになって教育活動を実践する。 (2)個々の進路の目標を明確にさせ、その実現にむけた指導と支援を行う。	(1)学びのブランドデザインを作成、共有し指導と支援をグループ間で連携して行う。 (2)勤労観・職業観を育むため、大学や企業と連携し、インターンシップへの参加や社会人講演会を実施する。 (3)高大接続改革に対応したキャリア支援策を研究する。 (4)アントレプレナーシップ教育の成果を進路活動に活用する。	(1)3年間のブランドデザインを作成し、発段階に応じた、課題解決へとつながる指導となったか。 (2)キャリア教育としての効果的な企画となったか。 (3)記述力、表現力等、今後求められる能力を育成できたか。 (4)学習体験が社会で逞しく生きる力の養成につながるよう、指導と改善に取り組んだか。	(1)学びのブランドデザインを作成、共有を促しているが、なかなか浸透までは進んでいない。 (2)インターンシップに145名の生徒が参加した。進路実現を目指した課題解決へと繋がる指導が行えた。 (3)高大接続改革の方針転換により評価できず。 (4)AO入試をした生徒のうち30%(26人)がアントレ選択者(内12名が合格)であった。	(1)年度途中で国の制度見直しがあったが、引き続き記述力・表現力の育成を目指す。 (2)体験を生かせるよう、参加者の更なる意識向上を目指す。 (3)接続改革方針転換への情報収集を密に行う。 (4)AO入試での資料作成など一定の成果があったので、引き続き質の向上を目指す。	(1)進学だけでなく、人生のキャリアデザインを視野にアントレプレナーシップ教育・インターンシップ等多彩な取組みをしていることは素晴らしい。 (2)大学入試改革の見通しの立たない状況の中で、生徒の不安を解消できるような相談体制を整えることが例年以上に必要な人生の選択肢があるのかを様々なケースから学ぶと良いだろう。	(1)学びのブランドデザインについては未だ作成途中。 (2)個々の生徒の進路実現に向けて的確な指導の対応ができた。アントレを受講した生徒がAO入試において成果を出せた。	(1)短期的、長期的な到達目標も含め、今後グループ間で連携して構築していく。 (2)年度途中で国の制度見直しがあったが、引き続き記述力・表現力の育成を目指す。また、より一層、大学や企業と連携し、インターンシップへの参加を促進し、質の高い社会人講演会等を実施していく。
4	地域等との協働	地域との連携や協働による多様な教育活動を展開するとともに地域の中の学校としてその役割を果たし、生徒の社会参画意識の向上を図る。	(1)地域の教育力と積極的に連携し、生徒の多様な成長に活かす。 (2)地域貢献を推進し、生徒の自己有用感を醸成する。	(1)地域貢献の意識を高め、校外の行事等への参加を促す。 (2)郊外の行事等に参加し積極的ににかかわる姿勢を示す。More★の主體的な活動を支援する。	(1)地域に支えられた学校という意識を共有できたか。 (2)地域とつながることで学校への信頼を得ることができたか。More★は主體的に活動できたか。	(1)PTAの活動が様々なところから表彰された。 (2)More★の活動は主體的に拡大しており、外部からの評価も高い。	(1)今後も引き続き活動するPTAを支援していく。 (2)More★の活動をもっと多くの教員、生徒に理解してもらうよう、働きかけていく。	(1)しっかり地域と繋がっていると感じる。元石川高校がないと地域が困るようになるという良い。 (2)生徒の社会参画の機会を積極的にを行い、More★他多彩な活動によって自治会・商店会・行政・企業との連携が進んでいることを大事にしてほしい。今後は地域協働の基盤をかした学びをカリキュラムに位置付け、学校全体として情報共有していくことで、より根付いていくのではないかと。	(1)(2)地域貢献については各方面において活発に行っており、本校の特色の一つとして定着しつつある。特にMore★の活躍はめざましいものがあった。	(1)(2)来年度も引き続き、PTA、部活動、ボランティア委員会、More★等の主體的活動を支援していく。地域との協働をおして地域に根付くよう、保護者、生徒、全職員が一団となって努めていく。
5	学校管理 学校運営	事故防止に係る取組み、安全・安心で信頼に根ざした学校づくりを推進するとともに、時代と社会の変化を見据えた学校運営に努める。	(1)防災研修をとおして、生徒の防災意識を高揚すると共に、防災体制の整備を推進する。 (2)本校の教育活動や活動実績について、生徒主体のわかりやすい説明と充実した広報内容に努める。 (3)コミュニティスクールの有効活用を推進し積極的に学校運営に活かしていく。	(1)実際の災害を想定した防災意識の向上と防災体制を充実させる。 (2)①学校説明会等の運営と内容が生徒主体の運営と内容が充実したものとなるよう企画し実施する。 ②学校HPに学校の情報をきめ細かく掲載する。 (3)コミュニティスクールの適切に運営し、地域の期待や意見を反映させながら連携を深め学校運営に生かす。	(1)大規模地震を想定した防災意識が定着したか。 (2)①学校説明会の生徒スタッフが、意欲的に取り組めたか。②HPの内容を充実させることができたか。 (3)学校運営の評価をふまえ趣旨にあった設置部会の活動ができたか。	(1)防災意識の醸成のために、シェイクアウト訓練に緊急地震速報チャイム音を使用した。防災生徒カードを改訂した。 (2)①学校説明会では生徒スタッフが意欲的に取り組み、毎回好評であった。②HPは9月に新システムに移行した。その関係でうまく情報発信できない部分もあった。	(1)防災には様々な場面が想定される。 (2)①今後も生徒スタッフが意欲的に活動できるように準備・指導をしていきたい。②HPの内容の充実と的確な情報発信に向け努力したい。	(1)防災対策に向けてよく工夫し、取り組んでいる。 (2)HPの充実を期待する。 (3)コミュニティスクールとして2年目に入り、より進化した学校運営協議会が行われた。今後はより協議機関としての機能を活かし、より学校の実現したい教育が学校・保護者・地域の理解と協働によって行われることを期待する。時には委員だけでなく、生徒を巻き込んだ熟議も開催してはどうか。	(1)様々な取組みにより、防災意識の醸成を育むことができた。 (2)生徒主体の学校説明会方式を取り入れたことが評判を呼び、入選での高倍率につながった。 (3)今年度は学校運営協議会委員と、教職員との協議の場が深まった。	(1)防災意識の醸成は極めて重要なことであり、継続して取組みを強化していく。引き続き、安全・安心な学校環境を整えていく。 (2)学校説明会では今後も生徒運営を核に、正確で十分な情報伝達を心がけていく。 (3)来年度はより一層、コミュニティスクールの有効活用を推進し、地域の期待や意見を反映しながら学校運営に生かす。